

第1分科会「学力の向上」課題と提案・意見について

意見整理

		A 全般	B 家庭・地域との連携	2 教員の指導力の向上に向けた取組	3 少人数教育の推進
審議で出た内容	課題	①特別支援教育において個別の教育支援計画を引き継いでいるが、その計画をチェックし、対応していく体制、機能が弱い。	①コミュニティ・スクールの推進について、趣旨を十分に伝えながら進めるなど、推進のあり方について検討が必要である。	①教員同士が課題を共有し、気軽に聞きあえる体制が十分でない。	①少人数教育について、教室が足りないなど、効果的に活用できない現状もある。
		②課題をきちんととらえる力を小中学校で連携して育成していく必要がある。		②小中高の各段階で求められる学力に関して、他校種の教員は十分な認識ができていない。	
総括表にある主な課題	課題	③学習障がいも、学校全体で連携し対応できれば、早期発見できる。		③小学校の場合、教科の指導について、学校全体で議論しやすいが、中学校では、学校規模にもよるが、教科の取組を超えて学校全体では議論しにくい。	
		(1)幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校が互いに連携しながら子どもたちの学びを引き継ぐ具体的な仕組みの検討と研究が不十分である。	(1)家庭・地域と連携・協力した学力の定着・向上に向けた取組が十分でない。	(1)OJTによる人材育成が課題であるが、学校の中で互いの力を磨こうとする「育てる文化」が薄れてきている。	(1)少人数教育の維持・拡充については、県の財政状況はもとより、国の学級編制の標準の見直しや文部科学省による教職員定数改善計画の動向に、大きく左右される。
ゲストスピーカーから	課題	(2)子どもたちの学習習慣・生活習慣の確立や、学習に対する意欲に問題がある。	(2)子どもたちの学習習慣・生活習慣の確立や、学習に対する意欲に問題がある。	(2)教員が学校の課題を共有し、さまざまな方法によって解決を図る機会が十分でない。	(2)指導方法の工夫改善が十分でない。
		(3)児童生徒の学力の実態を的確に把握して指導したり、授業のプロセスにおいて実施する評価を指導の改善や個に応じた指導に結びつけるなどの、目標に準拠した評価を指導に活かす取組が十分でない。	(3)社会的弱者(教育的に不利な環境のもとにある子ども)をはじめとする、すべての子どもの学力保障を学校、家庭、地域が連携してすすめる体系的な取組が十分でない。	(3)小中学校教員に対する研修については、市町等教育委員会と連携を図りながら実施しているが、十分には効果的・機動的に進められていない。	
審議で出された提案・意見	課題	(4)学力の定着・向上に向けて各学校の授業・教材の確立が丁寧でない。	(4)一定の権限と責任を持って学校運営に参画する委員の確保が難しい。	(4)毎年、継続した研修を行うことで中核になる教員を育成する。例として、中国での英語教育研修では、教員の高いモチベーションを維持し続けている。	○望ましい学級規模は、学校の状況によって違う。丁寧に見るための小ささと、集団で育てるための大きさと両方が必要。
		(5)特別支援コーディネーター等が要請派遣に対応するための体制整備が不十分である。	(5)新たにコミュニティ・スクールを導入するメリットが伝わりにくいことから、導入する市町が限られている。	○教員の優れた指導・取組を市全体の取組となるように支援することが必要。優れた取組をしている教員を孤立させない。	○少人数授業は、算数や英語のような体系的なカリキュラムによって積み重ねが必要となる教科で効果が期待できる。
審議で出された提案・意見	課題	(6)特別支援教育に学校全体で取り組むために、すべての教員の特別支援教育の専門性の向上が十分に図られていない。	○家庭・地域・学校のそれぞれが果たすべき役割と責任が、必ずしも明確でない。地域の実情を踏まえたうえで、情報の共有化を図り、それぞれの役割と責任を明確にした連携体制が必要である。	○「わからないことが何かわかること」が教育の根本的な目標。習熟度別クラスは子どもにそのような力を育むことにつながる。	○「わからないことが何かわかること」が教育の根本的な目標。習熟度別クラスは子どもにそのような力を育むことにつながる。
		○学力向上は、基本的に学校自身が目の前の子どものためにどうするか取り組まなければならないが、抽象論では動くはずがない。そこで、国の学力テストの結果を学校自身も分析し、具体的な対応策を作成して、実行してもらっている。		○望ましい学級規模は、学校の状況によって違う。丁寧に見るための小ささと、集団で育てるための大きさと両方が必要。	○少人数授業は、算数や英語のような体系的なカリキュラムによって積み重ねが必要となる教科で効果が期待できる。
審議で出された提案・意見	課題	○学校からの情報の共有によって、家庭や地域が「当事者意識」を持ってもらえるようになると、学校を支えていく大きな力となり、学力向上の土台となる。この土台を大人が作っていく勇気を持つことが必要。		○教員の優れた指導・取組を市全体の取組となるように支援することが必要。優れた取組をしている教員を孤立させない。	○「わからないことが何かわかること」が教育の根本的な目標。習熟度別クラスは子どもにそのような力を育むことにつながる。
		○県は、効果をあげている取組を普及・啓発し、施策による誘導を図っていく役割を果たすことができる。		○望ましい学級規模は、学校の状況によって違う。丁寧に見るための小ささと、集団で育てるための大きさと両方が必要。	○少人数授業は、算数や英語のような体系的なカリキュラムによって積み重ねが必要となる教科で効果が期待できる。
審議で出された提案・意見	課題	(a)子どもが勉強を好きになり、学習意欲を高める方策を講ずる必要がある。	(a)コミュニティ・スクールは、単に学校経営や学校運営の面のみならず、「学力の育成」においてもその良さが生きていくように進めていくことがのぞましい。	(a)教員同士が課題を共有し、教え合う環境づくりが必要。	(a)体系的なカリキュラムに基づき積み重ねが必要な教科においては、少人数や習熟度別の授業が有効。
		(b)学力調査等を活用して自分の指導に生かしていくというスタンスを教員が持つことが必要。	(b)コミュニティ・スクールの趣旨はたいへんよいものである。その趣旨を正しく理解するための機会が必要。	(b)年々子どもの状況も変わってきているので、県がそれに対応した研修をすることにより、教員の考え方が向上する。	(b)トップランナー的な手立てを広げるなど、指導方法の工夫・改善が必要である。
審議で出された提案・意見	課題	(c)教員が学力等の現状を具体的に分析できるノウハウをもてるようにする必要がある。	(c)保護者や地域の方を信頼して、子どもたちの学力の状況を踏まえた学校のあり方を一緒に考えていくことが大事である。	(c)他県に比べ校内研修が多いというよい環境を生かしていくべき。	(c)少人数教育について、施設の整備も含めて、効果的に活用できるよう検討する必要がある。
		(d)学力向上に向けて、教員の意欲や方向性の共有を求めていくこと、及び市町の取組の弱さを支援するとともに、良い取組を広めることが県の役割である。	(d)一部の住民だけが熱心に学校にかかわっているという現状がある中で、地域への働きかけにあたっては、学校からの発信を基本としつつも、行政からの働きかけも考えてほしい。	(d)学校を挙げての取組が県下で同じレベルで行われているか、県として一定の水準を保障する必要がある。	(d)少人数教育の推進は、学校種ごとの議論を行うことも適当ではないか。基礎学力の定着、きめ細かな職業教育の充実のために、特に専門高校における実習などでは、少人数教育についても検討が必要ではないか。
審議で出された提案・意見	課題	(e)体系的なカリキュラムに基づき積み重ねが必要な教科においては、少人数や習熟度別の授業が有効。	(e)多様な家庭状況がある中では、「家庭はこうあるべき」という単純な議論だけでは、課題を解決できないのではないかと。	(e)校内研修の内容・方法・体制の充実が図られるような取組を進める必要がある。	(e)少人数だから、教育がうまくいくか、学力が高いか、というと、そういうわけではない。
		(f)不登校や発達障がいの子供たちが、学習意欲を身につけ、自分に合う進路を実現できるような環境づくりを進める。	(f)学校支援ボランティアをコーディネートする者の存在、役割が大きい。また、ボランティア活用の効用は高い。	(f)「小中学校の連携」の研究指定について、取組を定着させるためには、一定期間が必要。県も市町の取組を支援する必要がある。	(f)少人数教育については、施設の整備も含めて、効果的に活用できるよう検討する必要がある。
審議で出された提案・意見	課題	(g)様々な支援を要する子どもたちへの高等学校の受け入れ体制づくりや就労への支援体制づくりが必要。	(g)学校への支援体制を充実するためには、ボランティアをコーディネートする機能が重要である。	(g)教員の指導力向上について、管理職の役割は大きい。教員の課題をフォローできる体制づくりが必要である。	(g)少人数教育については、施設の整備も含めて、効果的に活用できるよう検討する必要がある。
		(h)特別支援コーディネーターについて、他校との交流など、有効活用を進める。	(h)県民運動は、子どもたちが安心して家庭や地域や学校で生活できる基盤づくりへも含めて取り組むべきではないかと。	(h)校種を超えての授業交流や授業研究を進めるべきである。	(h)少人数教育については、施設の整備も含めて、効果的に活用できるよう検討する必要がある。
審議で出された提案・意見	課題	(i)特別支援教育に関して、人材育成、医療、福祉との連携や連携を受けての学校の対応を系統的、組織的な取組としていく。	(i)子どもたちは、様々な課題を抱えており、学校任せにせず家庭での気づきが大切である。家庭も、学力調査の結果を見て、もっと気づくべきである。	(i)子どもたちが参加したくなるような授業づくりをしてほしい。また、教員同士、批判を交えて向上してほしい。	(i)少人数教育については、施設の整備も含めて、効果的に活用できるよう検討する必要がある。
		(j)子どもたち一人ひとりの育ちが引き継がれていくことをすべての教職員で確認する機会が必要。	(j)学び合う関係ができていく学校づくりを、家庭・地域と連携して進めていく必要がある。	(j)ネットDE研修については、今日的な課題に応じて、内容の精査が必要。特に、指導・評価については、新学習指導要領への対応したバージョンアップが必要である。	(j)少人数教育については、施設の整備も含めて、効果的に活用できるよう検討する必要がある。
審議で出された提案・意見	課題	(k)子どもたちの学びを引き継ぐしくみとして、既存のしくみ(指導要録等)の効果的な活用方法についても検討する必要がある。	(k)学力と学ぶ意欲は密接に関係している。学校・家庭・地域が協力し、学ぶ意欲を付けていく取組が必要である。	(k)「授業文化」の定着に向けた取組については、個々の教員への支援だけではなく、学校全体の指導力向上につながる取組が必要である。	(k)少人数教育については、施設の整備も含めて、効果的に活用できるよう検討する必要がある。
		(l)個別の「教育支援計画」をチェックしたり、個々の子どもの対応方法と結果を学校全体でみる体制づくりを進める必要がある。	(l)コミュニティ・スクールの実践とおとして、学校の授業や進路指導が変わり、生徒の学校に対する評価が好転したことから、学力向上に向けて、家庭・地域と連携して取り組むことが効果的である。	(l)教員の指導力の向上のために、普段の授業の中で先輩教員が後輩教員を「育てる文化」の定着が重要である。	(l)少人数教育については、施設の整備も含めて、効果的に活用できるよう検討する必要がある。
審議で出された提案・意見	課題	(m)全国学力・学習状況調査の結果の公表については、過度な競争に陥らないように、また、調査の実施が目的となってしまうように進めるべきである。ただ、学力向上に向けた学校の取組・状況を保護者や地域に明らかにすることは、当たり前である。		(m)生徒が授業を評価する仕組みをつくるなど、教員が生徒に教えられ「育てられる文化」という視点も取り入れる必要がある。	(m)少人数教育については、施設の整備も含めて、効果的に活用できるよう検討する必要がある。
		(n)全国学力・学習状況調査の実施補助については、その他の学力検査への補助についても検討していく必要はないかと。		(n)他校種の校内研修に実際に参加できるようにするための仕組みづくりが必要である。	(n)少人数教育については、施設の整備も含めて、効果的に活用できるよう検討する必要がある。
審議で出された提案・意見	課題	(o)学力向上に向けては、現場には「何とかしよう」との強い思いがある。県としても教員のやる気に応え、全国学力・学習状況調査の調査実施への補助を積極的に進めるべきである。		(o)授業評価等、様々なデータを得ても、教師が十分な分析力を身につけていないため、データを読みこなして、どうすればよいかという考えに発展していかないのではないかと。	(o)少人数教育については、施設の整備も含めて、効果的に活用できるよう検討する必要がある。
		(p)全国学力・学習状況調査は工夫された良問である。実施し、子どもたちの実態を把握して、課題を見つけ、学校・市町・県が、それぞれの役割を明確にして、課題に対応していく必要がある。			(p)少人数教育については、施設の整備も含めて、効果的に活用できるよう検討する必要がある。
審議で出された提案・意見	課題	(r)少人数教育の実施等も含め、実践推進校の取組は、市町の状況に応じてどこか集中的に注力するような施策とすることも良いのではないかと。			(r)少人数教育については、施設の整備も含めて、効果的に活用できるよう検討する必要がある。
		(s)生徒が授業を評価する仕組みをつくるなど、教員が生徒に教えられ「育てられる文化」という視点も取り入れる必要がある。			(s)少人数教育については、施設の整備も含めて、効果的に活用できるよう検討する必要がある。

※4「特色ある教育の推進」に係る意見は、「1「学力向上に向けた学校の組織的な取組」に整理しました。